

みどり工房若林施設長・今野真理子さんと
金属造形家・ささきりえさんに聞く

「地元のアーティストと 福祉施設のコラボってどうですか？」

今まで東京のクリエイターとの協働が多かったエイブルアート・カンパニー。Good Job! 東北プロジェクトでは、地元のクリエイターの方がたと仕事をしてみたいという声に応えるべく、仙台市若林区にある地域活動支援センター・みどり工房若林とアーティストのささきりえさんの協働プロジェクトを支援しました。今回は1年をかけてともに商品開発に取り組んだ2人に、出会いから今後の展望までじっくりとお話をうかがいました。

聞き手 武田和恵

(エイブルアート・カンパニー東北事務局)

—ささきさんがプロジェクトに関わった経緯はどのようなものだったのでしょうか。

ささき エイブルアート・カンパニーのことは以前から知っていたので、ぜひ関わってみたいなと思っていました。ずっと自分の仕事で忙しかったのですが、結婚するタイミングで余裕ができたときにちょうどお仕事のお話がきたので、依頼を受けたんです。最初はお仕事のイメージがわからなかつたんですが、Good Job! 東北プロジェクトで生まれた商品を見て、完成度の高さに感動して、ちょっとでも携われたらなと思っていました。

—エイブルアート・カンパニーも、今まで東京のデザイナーとの協働が多かつたので、ぜひ地元のクリエイターとも仕事をしたいという想いがありました。実際に依頼を受けていただけで、ささきさんが自身がものづくりをされているからこそ、細かいパートのところまで商品を見ていただけたのだと感じましたが、その点はいかがでしたか？

ささき そうですね。あまり押し付けがましくならないよう「つくり手」の立場になつてつくる工程を考えながら作業を提案す



ささきりえ（金属造形家）

今野 真理子（みどり工房若林施設長）
東京都出身 宮城県柴田郡在住
宮城県仙台市出身
心理系大学卒業後、一般企業、専門学校（精神保健福祉士取得）を経てみどり工房若林に2002年入職。2011年4月より施設長就任。活動をとおし利用者が自己肯定を見出せるよう、和みのある施設をめざしている。

るようになりました。ただ、やっぱり普段身近にいるスタッフじゃないとメンバーの状況とか一人ひとりのことはわからないですね。だから一緒に作業することがこの事業をすすめていく上で重要なたんじやないかなと思います。それぞれの立ち位置がありつつも、協力してものをつくるというのはとても楽しかったですね。

—お互いの初めての印象は？

今野 まちがいなく良かったですよ。（笑）柔らかい雰囲気で、丁寧に向きあって話してくださいますから、メンバーとも自然に打ち解けて嬉しかったです。みんな敏感に人柄を感じますから、メンバーとあわないと工房とあわないってことになってしまふ。その点ささきさんはみんなから好かれていて、毎日工房にいてほしいくらいです。

—商品づくりについて、みどり工房の課題をおしえて下さい。

今野 震災後に本格的に手芸品をはじめたので、とにかく商品アイテム数を増やしてメンバーの作業を増やしたいと思つていました。ただ、企画性を持たない煩雑な商品開発になつていたのでそれが悩みでした。販売するにしてもジャンルがバラバラなので、ディスプレイの方向性やお客様へのメッセージなどもうまくまとまらない状況で、メンバーの作業としても店頭に商品を並べる時に苦労していました。商品アイテムの整理・ブラッシュアップなど今後の展開を考えたいなと思っています。

